

令和5年度（第15期）事業報告書

令和5年4月1日から令和6年3月31日

1. 事業の成果

都道府県開催の「放課後児童支援員認定資格研修」は、西日本を中心に7県の委託を受け実施することとなり、本会が全国有数の受託数であった。今までの放課後児童指導員資格認定事業の実績ゆえの結果であり、放課後児童支援員の専門性の向上に向けて貢献することができた。

2. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
■放課後児童指導員資格認定事業						
資格認定講習会	放課後児童育成支援師資格等認定講習会開催	年7日	岡山市 東京都	6人	一般 25人	701
資格認定	資格の認定証発行等	年1回	岡山市内	3人	修了者 54人	217
資格養成課程	大学等へ養成課程カリキュラムの導入	通年	全国各地	3人	大学・短大等	15
資格認定者管理	資格者の管理等	通年	岡山市内	2人	登録会員 1,114人	0
■放課後児童指導員研修事業						
都道府県放課後児童支援員認定資格研修	各地放課後児童支援員研修の受託、講師派遣	年128日	7県 31カ所	84人	自治体等 受講者 1671人	35,117
フォローアップ研修	資格者の再研修及び指導者資格研修	年2回	全国 2カ所	4人	登録会員等 26名	136
放課後児童支援員等資質向上研修	放課後児童支援員認定資格研修と資質向上研修を行う	年22日	3県 13カ所	24人	自治体等 受講者 1028人	8,477
放課後児童支援員認定資格研修テキスト作成事業	放課後児童支援員認定資格研修で使用するテキストの作成	通年	岡山市内	4人	自治体等 多数	1,314
放課後児童支援員等ガイドブック作成事業	放課後児童クラブ専用ガイドブックの作成と活用	通年	岡山	6人	登録会員・自治体等 多数	0
■放課後児童健全育成事業						
放課後児童健全育成事業	放課後児童クラブの運営を行う	なし	岡山市内	0人	自治体等	0
■その他本会の目的を達成するための事業						
放課後児童クラブ点検評価支援事業	放課後児童クラブの運営等についての評価	通年	岡山県	8人	放課後児童クラブ	280
情報発信メルマガ・WEBサイト	メールマガジンの発行ホームページの管理	年6回以上	岡山市内	2人	登録会員他 一般	0

■放課後児童指導員資格認定事業

◀資格認定講習会▶

【目的】

放課後児童育成支援師資格等を認定するための講習会に関わる準備と実施。

【概要・内容】

「放課後児童育成支援師資格」は23名(うち2名再履修)、「放課後児童高度育成支援師資格」は2名の受講者を迎え、それぞれ開催した。「放課後児童専門育成支援師資格」については、受講者確保の見込みが立たないことなどから未開催となった。「放課後児童育成支援師資格」は修了者16名・翌年度再履修者7名、「高度育成支援師」は修了者2名となった。

【成果・課題】

育成はオンライン開催を軸に、1回目と4回目は東京会場と中継のハイブリット方式での開催となった。東京会場については受講者である林田圭さんの協力でベネッセ学童を使用させていただいた。東京会場開催日のオンライン受講者対応は事務局で行い、他の研修の繁忙期と重なった2回目のオンライン研修の運営は昨年同様、CFAにお願いすることとなった。運営委託については昨年の実績があったため、初めてであった昨年と比較すると全体的にスムーズに進められた。支出的には旅費の部分で赤字となったが、満足度は高かった様子なので今後に繋がることに期待を寄せている。

◀資格認定▶

【目的】

資格認定講習会または養成課程にて修了された方に、認定資格証と資格証カードを発行する。

【概要・内容】

資格認定講習会からは育成支援師16名、高度育成支援師2名に、養成課程設置校からは鈴鹿大学11名、中国学園大学23名へ資格証を発行した。更新制については、平成25、30年度取得者212名の資格証カードを再発行した。

【成果・課題】

協会資格の変更により、資格種別が従来の「放課後児童指導員」「放課後児童指導員〈上級〉」2種類から、新資格3種類分と仮認定(支援員研修未修了者)と計6種類に増え、複雑化したため、煩雑にならないような管理方法が必要であるが後回しになっている。

◀資格養成課程▶

【目的】

放課後児童指導員資格を大学で取得できるようにすることを目的としている。そのため、資格取得が可能となる養成課程の設置に関する業務を行っている。

【概要・内容】

- ①養成課程設置校1校の設置更新料や年会費の請求。質問への連絡対応など。
- ②設置を検討する学校からの問い合わせに対する対応。
- ③設置取消を検討する学校からの問い合わせに対する対応。
- ④表彰者2名への賞状、記念品の授与。

【成果・課題】

- ①鈴鹿大学は、令和2年度までに入学した学生（令和5年度卒業予定）で資格養成は終了となった。
- ②今後に備え、養成課程の継続や教員の変更手続き等に関する規定を明確にする必要がある。
- ③連絡協議会の詳細が不透明なまま会費を徴収しており、預り金のままになっている。
- ④養成課程の設置を検討する大学等からの質問に対し、迅速に回答できる体制を整える。
- ⑤設置申請の手引きの改訂に取り組むとともに、連絡協議会総会を開催できるようにする。
- ⑥令和2年度から放課後児童支援員に係る都道府県認定資格研修ガイドラインで、基礎資格取得見込みの方も受講できることに変更となっている。広島県は令和5年度より年度内基礎資格取得見込みの方（教育福祉系の大学生）も受講可能としている。岡山県でも学生が受講できるように働きかけると同時に、即したカリキュラム改定と仕組みの見直しが必要と思われる。

《資格認定者管理》

【目的】

放課後児童指導員資格認定者（登録会員）の情報管理

【概要・内容】

令和4年度までの資格認定者1,114名の情報管理と、登録会員の年会費引き落とし手続き。

【成果・課題】

令和5年度の年会費を各会員の郵便局口座から自動引き落としするための手続きを行なった。65名が未徴収（年度末退会者を除く）。未徴収者には郵便にて連絡しており、2年未納者で3年目となった方には、年度末で自動的に退会＝資格無効となる旨を伝えた。令和5年度末での退会者は49名（内資格失効16名）となっており、支援員研修スタート以降、退会する方が増えている。

■放課後児童指導員研修事業

《都道府県放課後児童支援員認定資格研修事業》 委託事業

【目的】

国のガイドラインに沿った「放課後児童支援員認定資格研修」を都道府県からの委託を受け開催するもの。プロポーザルに参加し、滋賀県・鳥取県・島根県・岡山県・広島県・徳島県・高知県からの委託を受けた。

【概要・内容】 各県での開催数・場所・受講者数は以下となっている。

県・会場数	開催場所	開催日数	受講者数
滋賀県3会場	大津市・彦根市・オンライン開催	4日間×2会場 8日間×1会場	297名
鳥取県2会場	鳥取市・米子市	4日間×1会場 8日間×1会場	106名
島根県11会場	松江市2会場・出雲市2会場・浜田市・大田市・益田市・雲南市・隠岐の島町・美郷町・オンライン開催	4日間×8会場 8日間×3会場 ※一部、リモートによる同日開催あり	271名
岡山県5会場	岡山市2会場・総社市・高梁市・津山市	4日間×4会場 8日間×1会場	370名
広島県7会場	広島市3会場・東広島市・三次市・福山市・オンライン開催	4日間×7会場	408名
徳島県2会場	徳島市・オンライン開催	6日間×2会場	135名
高知県1会場	いの町	4日間×1会場	84名

【成果・課題】

県の実情に合わせて、対面式、オンライン形式とそれぞれ取り入れながら開催している。オンライン形式の運営面については前年度までの課題を踏まえ、円滑な運営に向けて改善を図った。コロナに伴う規制が緩和され、オンライン形式から会場研修へ切り替わる県もある一方、県によっては地理的な面を考慮し引き続きオンラインを残しており、今後も同様の対応をとると思われる。また、受講者層の変化により、個別対応が必要な受講者が増えてきており、当日運営に支障をきたす場面が出てきたため、より細かい留意事項を開催要項等に盛り込む予定である。

《フォローアップ研修事業》

【目的】

登録会員の方へのフォローアップ研修を行う。

【概要・内容】

登録会員へのフォローアップ研修を実施した。開催地、参加者数は以下である。

開催地域	開催日	内容	参加者数
三重	5月14日	実践力を高めるための記録と検討 講師：中山芳一	10名
滋賀	1月12日	放課後児童支援員として守るべきこと 講師：中山芳一	16名

【成果・課題】

令和4年度に担当者講師、事務局との行き違いにより延期することになった三重でのフォローアップ研修に加え、滋賀でもフォローアップ研修を実施した。昨年度は各地域での現地開催となったが、コロナ禍でオンライン研修が普及したなか、オンラインでの開催は各地域の実情に左右されずこちら主導で開催できるひとつの方法と考えられる。

《放課後児童支援員等資質向上研修》 委託事業

【目的】

岡山県、島根県、広島県からの委託により、放課後児童支援員等の資質向上を図ることを目的とした「放課後児童支援員等資質向上研修」を開催した。

<岡山県>

①新・放課後子ども総合プラン合同研修

【概要・内容】

集合形式での実施となり、全体で261名が参加した。

○2月18日（日）中国学園大学 10時30分～14時30分

全体研修：気になる子どもや発達障がいのある子どもとかわるためにもっと効果的な声かけができるようになろう！ 講師：乾倫子 参加者：258名

テーマ別①“大人”マナーと伝え方のノウハウを学ぼう 講師：高橋有子 参加者：92名

②おススメの遊びに挑戦！まずは先生たちがやってみよう！講師：遊び研 参加者：65名

③交流会 みんなで話し合おう！子どもたちのいま 一学校・家庭・放課後は？

講師：中山芳一 参加者：39名

【成果・課題】

参加者数が 261 名とコロナ禍以前の水準に戻り、全体的に活気があり、意欲的に研修参加している様子が見られた。だが、参加者が増えた分、駐車場および誘導人員の不足についてやテーマ別研修の会場が参加者数に対して狭かったという意見があった。

②初任者・中堅者研修

【概要・内容】

初任者、中堅者と階層別での研修を行った。

階層別	地域	開催日	内容	参加者数	
初任者	岡山市	1月14日	・放課後児童支援員の職務内容 ・放課後児童支援員として必ず守るべきこと 講師：中野健汰	63名	
	津山市	1月28日		27名	
中堅者：1回目	岡山市	1月8日	・放課後児童支援員に求められる コミュニケーションスキル ・放課後児童支援員に求められる 予測力と判断力 講師：中山芳一	112名	
	津山市	1月21日		29名	
	：2回目	岡山市	2月4日	・職員集団に求められる課題解決力 ・同僚職員を育て、励ますための人材育成力 講師：中山芳一	110名
		津山市	2月3日		24名

【成果・課題】

南部会場の中堅者研修への申込者数が想定より多く定員超過での受け入れとなり、環境的な部分で窮屈さを強いることとなった。どの会場でもグループワークが活発に行われ、集合研修ができて良かったという意見が多く見られた。一方、申込にあたっては、例年と同様に、受講クラブの偏りが見られた。

③放課後児童クラブにおける児童への性暴力等の防止に関する研修

【概要・内容】

例年実施している資質向上研修に加え、県の意向により放課後児童クラブにおける児童への性暴力等の防止及び早期発見並びに児童への性暴力等への対処につなげることを目的とする研修を行った。

○2月22日（木）10時00分～12時00分 講師：周防美智子

会場：岡山県生涯学習センター 参加者：22名

Youtube 配信：受講者 285 名がそれぞれ参加した。放課後児童クラブは遊びと生活の場であることから、家庭的な雰囲気ゆえに支援員と児童との身体的距離が近くなりがちであり、発達段階も幅広いから、性的なことに興味を持ち始める思春期前期に突入した児童もいる中で、改めて支援者と児童との適切な身体的・心理的距離を学び、誤解を生まない、生ませない関係の作り方を再確認した。具体的な事例や防止策も示され、自身やクラブでの関わりを見つめ直す機会となった。アンケートでの質問も受付、後日講師からの回答をメールで送り、情報共有を図った。

【成果・課題】

具体的な性暴力の防止策や性暴力に繋がりうる要注意な関わりが示されたことで、信頼関係の指標がボディタッチではないことに気づかされた支援員も多く、戸惑いも見られた。同時に正しい知識に基づき、クラブ内で見つめ直す機会となった様子が伺え、一定の知識の向上に寄与できたと感じた。

会場の Wi-Fi 接続がうまくいかず、急遽モバイル Wi-Fi で対応したが、立地的に電波状況が悪く、

オンラインで視聴された方々からは電波状況の悪さにクレームが多くくることとなった。会場とオンライン併用の開催はこのようリスクが高く、本会が持つシステムや技術的にも難しいことを痛感した。今後はハイブリッドでの同時開催は避けたいと思う。

<島根県>

①島根県放課後児童支援員等キャリアアップ研修

【概要・内容】

1回目午前は放課後児童支援員と放課後子供教室の方と対象としており、1回目午後と2回目は支援員のみの内容となっており、2回通して参加し課題を提出された方へ修了証が発行された。

回数	地域・開催日	内容	参加者数
1	松江市：1月27日	午前：子ども・大人たちとのかかわりに求められる コミュニケーションスキル	午前 45名 午後 44名
	浜田市：1月14日	午後：放課後児童支援員に求められる 予測力と判断力 講師：中山芳一	41名
2	松江市：2月11日	・職員集団に求められる課題解決力	午前 19名 午後 17名
	浜田市：2月12日	・同僚職員を育て、励ますための人材育成力 講師：中山芳一	18名

【成果・課題】

島根県は支援員研修の講師はオンラインであることから、会場で講師が受講者と直接顔を合わせてする研修は受講者の満足度を高めている様子がアンケート結果からも伺えた。また、レポートから見る受講者の理解度も高かったと言える。

②島根県放課後児童クラブ初任者研修

【概要・内容】

今期より、勤続年数1年目の放課後児童支援員認定資格研修未受講者を主たる対象とし、放課後児童支援員の役割や職務内容に関する基礎的な知識を理解することを目的とした研修が新たに実施された。座学での研修に加えて、1回目の研修の際に課題を出し、2回目は出された課題を振り返りながら、これまでの現場で感じた困りごとや疑問などを整理し、話し合える時間も設けた。

回数	地域・開催日	内容	参加者数
1	松江市：6月17日	・放課後児童支援員の職務内容	40名
	浜田市：7月8日	・育成支援の基礎と実際	17名
	大田市：7月9日	・放課後児童支援員としての職務倫理 ・育成支援実践〈遊び・活動編〉 講師：中野健汰	12名
2	松江市：1月13日	・課題への振り返り	29名
	浜田市：1月20日	・育成支援実践〈連携編〉	8名
	大田市：1月21日	・育成支援実践〈安全・健康管理編〉 ・育成支援の省察と改善 講師：中野健汰	12名

【成果・課題】

初めての開催であったが、研修および課題について、参加者は意欲的に取り組めており、グループワークでの積極的なやりとりも見られた。一方、1回目と2回目の研修間隔が長過ぎるという意見が多く、実際に2回目の参加者数が大きく減少した会場もあることから、今後は2回目の研修を夏休み明けの9月に実施するように考えている。

＜広島県＞ 広島県放課後児童支援員等資質向上研修

【概要・内容】

主に施設主任を対象とする資質向上研修。広島会場・福山会場の2会場で行った。

回数	地域・開催日	内容	参加者数
1	広島市:11月18日	・放課後児童支援員として必ず守るべきこと	69名
	福山市:11月11日	・職員集団の職務遂行のために必要なこと 講師:中山芳一	27名
2	広島市:12月10日	・子どもの様子と育成支援内容の記録	68名
	福山市:12月16日	・育成支援実践の事例検討 講師:中山芳一	25名

【成果・課題】

どの会場でもグループワークが活発に行われ、受講者の満足度を高めていた様子がアンケート結果から伺えた。また、レポートから見る受講者の理解度も高かったと言える。ただ、例年広島県の規模からいくと全体の受講者数が少なく、何が課題となっているのか県とも協議が必要である。

＜放課後児童支援員認定資格研修テキスト作成事業＞

【目的】

放課後児童支援員等資質向上研修で使用するテキストの作成

【概要・内容】

平成27年度に作成したテキストを改訂を図り、印刷製本し使用した。改訂箇所は法令の改正部分、データの更新と図表の更新、運営基準や運営指針の変更箇所、実施要綱などを最新版にした。

【成果・課題】

作成したテキストを研修で使用することは費用面や研修内容の質の担保に於いて重要な位置づけとなっている。こどもに関する施策が大きく変わるなか、10年目に突入するこのテキストも効果的に活用するためにはブラッシュアップが必要と感じている。

■放課後児童健全育成事業

該当する事業はなし。

■その他本会の目的を達成するための事業

＜放課後児童クラブ点検評価支援事業＞

【目的】

放課後児童クラブの質の向上を目的に、放課後児童クラブの育成支援内容に関する点検評価を行う。

【概要・内容】

厚労省から出された放課後児童クラブの第三者評価ガイドラインをベースに昨年度使用のものを活用した。実施先は、NPO法人くらしき放課後児童クラブ支援センターの4支援（とみた児童クラブ第3、ながおキッズ児童クラブ第1、中島学童保育1組、二福のびのび児童クラブ1組）で、事前に送った自己点検評価シートを訪問日までに提出してもらい、2月20日に2名で各クラブを周り、訪問調査を行った。

【成果・課題】

実施先の4支援について、いずれも素晴らしい取り組みをされており、各クラブがほとんどの項目でA評価（最高評価）を受けていた。それゆえに、更なる改善を図ったとしてもこれより上の評価が無い

ということが、この点検評価を受ける動機を下げってしまう理由になりうるという話が出た。A 評価より上の評価基準（例：「S 評価」の新設など）を設けるなどの検討をしても良いのかもしれない。

また、実施先への結果報告書は送るが、認定証や認証マークなどの評価結果公表に向けては保留のままである。ただ今後は各自治体で認証を受けた第三者評価機関が行うであろうと予測されるため、本会の立ち位置は「クラブの質向上のためのコンサルタント事業」として出していくものと考えている。

《メールマガジンの発行》

【目的】

会員への情報提供と会員同士の交流

【概要・内容】

5月より隔月で6回発行（79号～84号）内容は、

- ・理事長だより
- ・会員だより「最近の児童クラブの様子」
- ・各種研修、セミナー、書籍のお知らせなど

【成果・課題】

隔月定期発行だが、研修の申込み以外については、会員からの反応は特にない。会員管理システムにより、不達メールと原因の詳細が確認できるため、配信率は98%になっている。（あくまで存在するアドレスのみでの判定）

《ホームページの運営》

【目的】

社会に対して、本協会の活動を幅広く提供する。

【概要・内容】

最新の情報を提供するためトップページ「お知らせ」を、年7回程度更新を行った。フェイスブックによる情報発信は年7回行った。

【成果・課題】

事務局で行えるのは「お知らせ」の部分だけなので、その他の修正は依頼する必要があるが、情報共有できていない現状にある。点検評価支援事業に関する項目も未掲載のままである。